

平成22年12月期 決算説明資料

Clean, Health, Safety



 **興研株式会社**

平成23年 3月 10日

平成22年12月期 決算概要

営業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、緩やかな回復基調にありましたが、急激な円高の進行、雇用形態の規制強化、生産拠点の海外移転の加速等により、国内の設備投資に対しては慎重姿勢が強まりました。またチャイナリスクについての懸念意見も大きくなっており、先行き不透明感が高まる状況で推移しました。

こうした厳しい経営環境下にあって、マスク関連事業部門の製品需要は、全般的には後半に来てようやく下げ止まりを見せましたが、石綿対策用の電動ファン付き呼吸用保護具は同市場で当社製品が認知され前事業年度に広く普及したことから、販売数は前事業年度対比減となりました。その結果、売上高は68億28百万円(前事業年度比3.5%減)となりました。

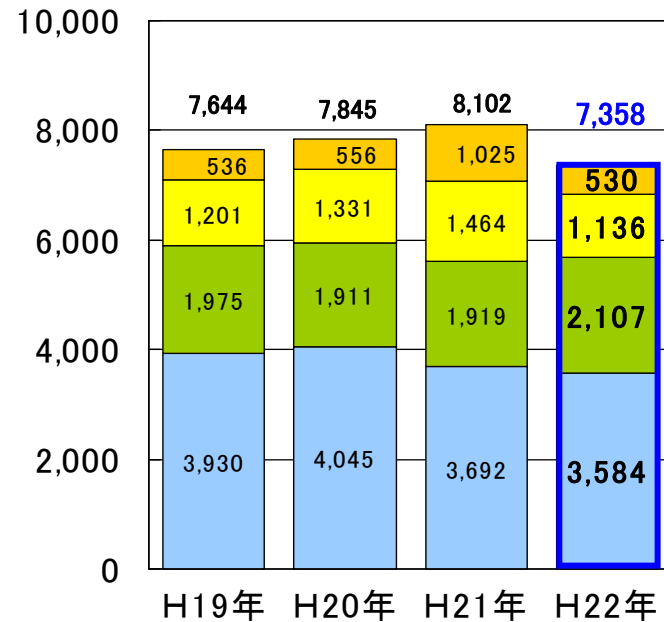
環境関連事業部門においては、ホルムアルデヒドの法制化による医療機関での前事業年度の換気装置需要の反動によって、売上高は5億30百万円(前事業年度比48.3%減)となりました。

以上の結果、両事業部門を合わせた当事業年度の売上高は73億58百万円(前事業年度比9.2%減)となりました。

利益につきましては、売上高の減少を見込み、原価率の低減と全社挙げての業務の効率化等による経費削減に努めた結果、営業利益は6億35百万円(前事業年度比7.1%増)となり、また経常利益は、支払手数料等の営業外費用が減少し、5億32百万円(前事業年度比18.9%増)と改善しました。当期純利益につきましては、確定拠出年金制度への移行に伴う特別利益2億23百万円を計上したことから、4億21百万円(前事業年度比57.0%増)となりました。

売上高・売上構成比の推移

(百万円)

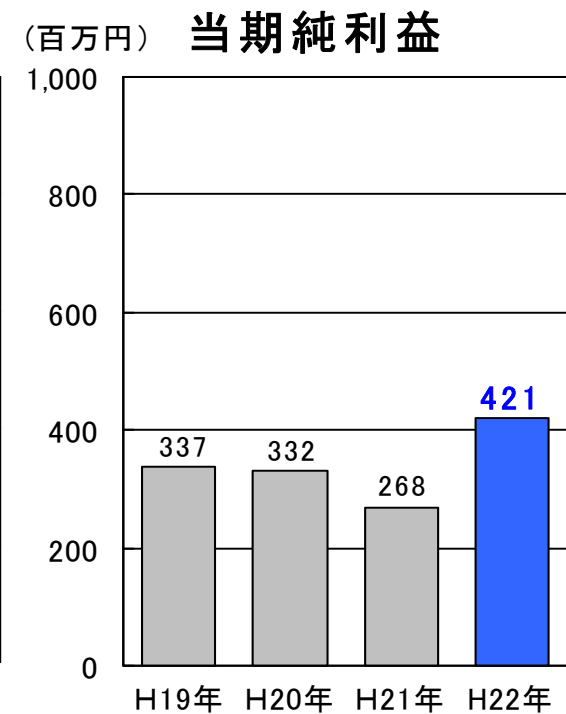
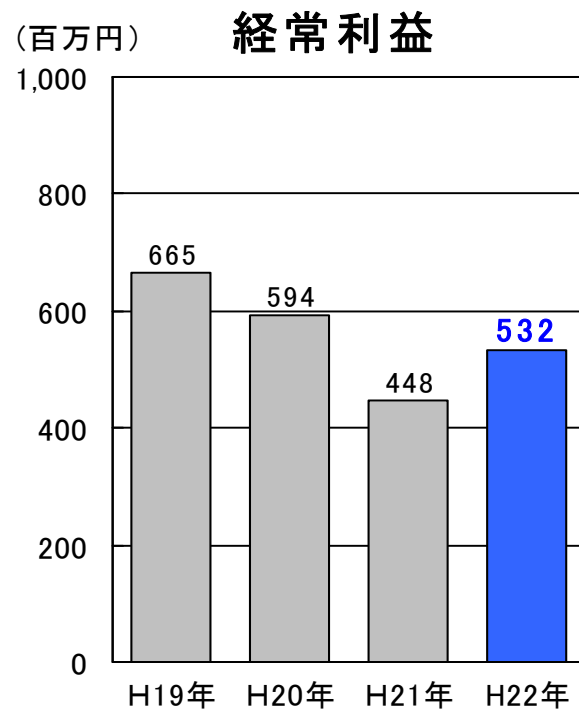
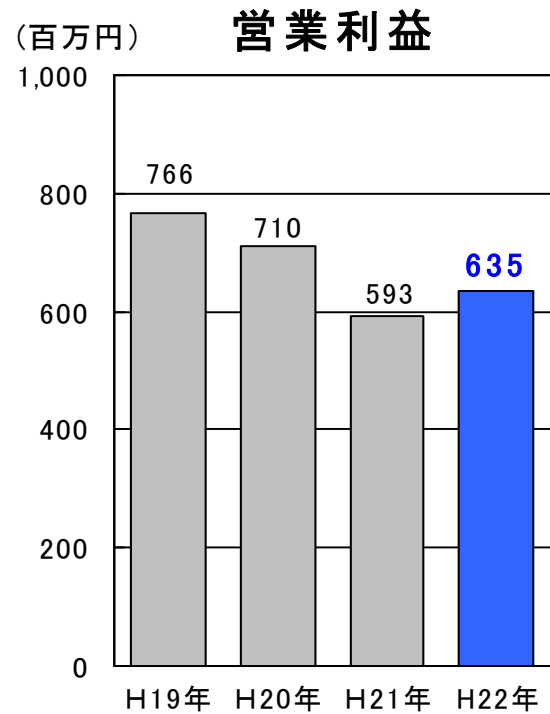


| | |
|-----------------------|--|
| ■ 環境改善工事・機器 | ホルムアルデヒドの規制強化によって前事業年度大きく伸びた反動の影響が大きく、減収となりました。 |
| ■ 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品 | 電動ファン付き呼吸用保護具が、石綿市場で当社製品が認知され、前事業年度に広く普及したことから、販売数は減少しました。 |
| ■ 防毒マスク | 官需による売上が前事業年度に比べ増加しました。 |
| ■ 防じんマスク | 需要は、後半に来てようやく下げ止まりを見せるという結果になりました。 |

(百万円未満の端数切り捨て)

| 品目区分 | 平成19年 | | 平成20年 | | 平成21年 | | 平成22年 | |
|-----------------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 |
| ■ 環境改善工事・機器 | 536 | 7.0% | 556 | 7.1% | 1,025 | 12.7% | 530 | 7.2% |
| ■ 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品 | 1,201 | 15.7% | 1,331 | 17.0% | 1,464 | 18.1% | 1,136 | 15.4% |
| ■ 防毒マスク | 1,975 | 25.9% | 1,911 | 24.4% | 1,919 | 23.7% | 2,107 | 28.7% |
| ■ 防じんマスク | 3,930 | 51.4% | 4,045 | 51.5% | 3,692 | 45.5% | 3,584 | 48.7% |
| 合計 | 7,644 | 100.0% | 7,845 | 100.0% | 8,102 | 100.0% | 7,358 | 100.0% |

営業利益・経常利益・当期純利益の推移



(百万円未満の端数切り捨て)

主要な経営指標等の推移

(千円未満の端数切り捨て)

| 区分 | 第45期 平成19年12月期 | 第46期 平成20年12月期 | 第47期 平成21年12月期 | 第48期 平成22年12月期 |
|------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 売上高(千円) | 7,644,859 | 7,845,556 | 8,102,194 | 7,358,872 |
| 営業利益(千円) | 766,090 | 710,918 | 593,657 | 635,800 |
| 経常利益(千円) | 665,875 | 594,546 | 448,168 | 532,880 |
| 当期純利益(千円) | 337,950 | 332,058 | 268,361 | 421,366 |
| 1株当たり当期純利益 | 66円 92銭 | 65円 71銭 | 53円 6銭 | 83円 31銭 |
| 自己資本当期純利益率 | 4.6% | 4.4% | 3.5% | 5.4% |
| 総資産経常利益率 | 4.4% | 3.8% | 2.7% | 3.3% |
| 売上高営業利益率 | 10.0% | 9.1% | 7.3% | 8.6% |
| 1株当たり年間配当金 | 25円 00銭 | 25円 00銭 | 25円 00銭 | 25円 00銭 |
| 配当性向 | 37.4% | 38.0% | 47.1% | 30.0% |
| 純資産配当率 | 1.7% | 1.7% | 1.7% | 1.6% |
| 総資産(千円) | 15,198,789 | 16,357,462 | 16,330,742 | 15,563,206 |
| 純資産(千円) | 7,478,239 | 7,618,476 | 7,737,594 | 8,019,514 |
| 自己資本比率 | 49.1% | 46.4% | 47.1% | 51.2% |
| 1株当たり純資産 | 1,477円 79銭 | 1,499円 63銭 | 1,522円 27銭 | 1,576円 93銭 |

◇オープンクリーンシステム「KOACH」が十大新製品賞を受賞しました ～クリーン化技術の秀逸性、実用性が高く評価されての受賞～

日刊工業新聞社主催の2010年（第53回）「十大新製品賞」※1に当社のオープンクリーンシステム「KOACH（コーチ）」が本賞として選ばれました。「KOACH」の「周りを囲うことなく、スイッチを入れた30秒後には「ISOクラス5」のクリーンゾーンを形成する」という、これまでにない新しい技術が評価されての受賞です。



■受賞会社（社名50音順）

【本賞】

(株)アマダ／(株)アマダマシンツール、NEC、川崎重工業(株)、**興研(株)**、シャープ(株)、日立金属(株)、(株)日立製作所／(株)日立プラントテクノロジー、ファナック(株)、富士通(株)、ヤマザキマザック(株)

【日本カ(にっぽんくらんど)賞】


(株)ソディックプラスチック、(株)東芝、パナソニック(株)

【モノづくり賞】

オークマ(株)、キヤノン(株)、(株)島津製作所、(株)森精機製作所

【中堅・中小企業賞】

(株)シギヤ精機製作所、トーヨーエイテック(株)



2010年度(本賞)受賞製品
オープンクリーンシステム「KOACH」

※1 十大新製品賞
日刊工業新聞社が優秀新製品の開発奨励とわが国産業界の技術水準の向上に資することを目的として1958年に創設した制度。毎年、その年に製品化され発売された新製品の中から10点が厳選され、表彰されている。



2002年度(中堅・中小企業賞※2)受賞製品
全自動内視鏡洗浄装置「鏡内侍」

※2 中堅・中小企業賞
中堅・中小企業の新技術、新製品開発を促進、応援するために2002年に新設。「鏡内侍」が第1号として選定された。

トピックス

Clean, Health, Safety

◇フィッティング測定サービスを体験された方が13万人を超えました
～マスクは“フィットが重要”という考え方が、着実に拡大～

マスクは、いくら高性能なフィルターを使用していても、顔とマスクの間にすき間が生じると細菌やウイルス、粉じんなどの有害な物質がマスク内に侵入してくる危険性があります。

当社は早くから、マスクの漏れ込みリスクに着目し、長年にわたってフィット性を向上させる素材開発、技術開発、製品開発等の“フィットを追求した製品づくり”を続けてまいりました。

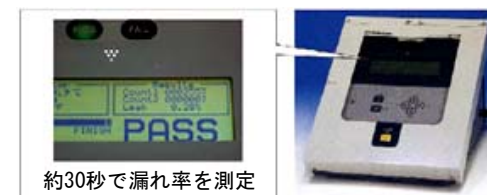
それに加え当社では、「マスクフィッティングテスター」というマスクの漏れ率を測定する装置を活用した“フィットの重要性をユーザー様に直接伝える啓発活動（フィッティング測定サービス）”を行っております。

当社の営業マンは、この測定装置をユーザー様の医療現場や作業現場に持ち込み、マスク着用者個々の漏れ率を測定します。そして、営業マンは実測したデータを示しながら、フィット性が高く自分の顔に合ったマスクを選んだ上で、適切に着用しなければ、マスクは漏れてしまうことをマスク着用者全員に理解していただく活動を続けております。

当社がこれまで測定した件数は、11,285件。測定者は13万人を超えました。この漏れ率の測定がユーザー様の感染対策や安全衛生教育のプログラムに組み込まれ、当社の営業マンが教育の講師として数多く招かれています。

フィット性の高い当社製マスクがあらためて評価され、シェア拡大が進むよう、これからも“フィットを追求した製品づくり”と“フィットの重要性を伝える活動”を続けてまいります。

マスクフィッティングテスターMT-03



外気とマスク内との粉じん濃度を比較して、漏れ率として装着状態の良否を表示する測定器（柴田科学社製）



| 測定件・者数（平成23年2月28日現在） | | |
|----------------------|----------|----------|
| 医療分野 | 産業分野 | 合計 |
| 4,070件 | 7,215件 | 11,285件 |
| 28,608人 | 102,732人 | 131,340人 |

当社の研究開発は、当社の基本方針である『クリーン,ヘルス,セーフティ』の追求に対し、自由で独創的な技術開発とその多面的応用を目指して活動しております。とりわけ「労働安全衛生保護具」、「作業環境改善」については、長年の技術蓄積を持ち、信頼を勝ち得ている分野ですが、なお革新性の高い技術に挑んでいます。さらに未来技術の基礎開発・応用開発にプロジェクトチームを含めマトリックス型の研究体制を敷いております。

なお、研究開発担当人員は70名、当事業年度の研究開発費は、総額4億59百万円であります。当事業年度中の主な開発製品は以下の通りです。

斜流オープンクリーンゾーン生成装置「ダイゴコーチ」

斜めに吹き出す気流がクリーンゾーンを形成するので、人を配置しても安定した清浄度を保つことができます。柱等の障害物がある「KOACH」を正対させられない場合の処置としてもダイゴコーチは有効です。



横連続クリーンゾーン生成装置「連続コーチ」

「KOACH」を並べて設置する際、どうしても生じてしまっていたユニットとユニットの間の清浄度の低下を、新たな技術の導入で防ぐことができます。この技術によって、「KOACH」はいくらでも連続して開口面を拡張することが可能となります。



全面クリーンゾーン生成装置「フロアコーチ」

連続コーチの技術を応用し、かつ送風機を背面に移動することにより、床面までの全面クリーン化を可能にしました。複数台を組み合わせて対向させれば、オープンクリーンブースになり、高さ調整台を利用すればどの高さからでもクリーンゾーンの形成が可能です。



全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍 F1」

全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍（かがみないし）」は、「消化器内視鏡の洗浄・消毒マルチソサエティガイドライン」に則した洗浄消毒を全自動で行えるもので、『確実に洗浄消毒でき、安全性にも優れる』『短時間の洗浄を可能にする自動ブラッシング機能を搭載』『強酸性・強アルカリ性電解水が洗浄消毒コストを削減する』等の特長によって、ご好評をいただいております。

しかしながら、同装置はオリンパス社製内視鏡対応モデル「O1（オーワン）」のみであったため、医療機関からのご要望もあり、富士フィルム社製の対応と改良を施したモデル「F1（エフワン）」の開発を行いました。両モデルを揃えたことで同装置の販売が加速するものと思われま。



貸借対照表

(百万円未満の端数切り捨て)

| 科目 | H21年 12月末 | H22年 12月末 | 増減額 | 科目 | H21年 12月末 | H22年 12月末 | 増減額 |
|--------------|---------------|---------------|-------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|
| 流動資産 | 6,630 | 6,337 | △292 | 負債 | 8,593 | 7,543 | △1,049 |
| 現金及び預金 | 1,666 | 1,809 | 142 | 流動負債 | 5,449 | 5,009 | △440 |
| 受取手形及び売掛金 | 3,356 | 3,219 | △137 | 短期借入金 | 1,100 | 3,100 | 2,000 |
| 商品及び製品 | 694 | 491 | △203 | 1年内償還予定の社債 | 2,200 | — | △2,200 |
| 仕掛品及び原材料、貯蔵品 | 694 | 577 | △117 | 未払法人税等 | 220 | 59 | △160 |
| その他 | 222 | 244 | 22 | その他の流動負債 | 1,929 | 1,849 | △79 |
| 貸倒引当金 | △4 | △4 | — | 固定負債 | 3,143 | 2,534 | △609 |
| 固定資産 | 9,700 | 9,225 | △474 | 長期借入金 | 2,259 | 1,891 | △368 |
| 有形固定資産 | 8,281 | 7,998 | △282 | その他の固定負債 | 883 | 642 | △241 |
| 建物(純額) | 1,467 | 1,381 | △85 | 純資産 | 7,737 | 8,019 | 281 |
| 機械及び装置(純額) | 1,128 | 906 | △221 | 株主資本 | 7,694 | 7,988 | 294 |
| その他 | 5,685 | 5,710 | 24 | 資本金 | 674 | 674 | — |
| 無形固定資産 | 26 | 29 | 2 | 資本剰余金 | 528 | 528 | — |
| 投資その他の資産 | 1,391 | 1,197 | △194 | 利益剰余金 | 6,532 | 6,827 | 294 |
| 投資有価証券 | 180 | 72 | △108 | 自己株式 | △41 | △41 | △0 |
| その他 | 1,212 | 1,125 | △86 | 評価・換算差額等 | 4 | △13 | △18 |
| 貸倒引当金 | △1 | △1 | — | 新株予約権 | 38 | 44 | 5 |
| 資産合計 | 16,330 | 15,563 | △767 | 負債・純資産合計 | 16,330 | 15,563 | △767 |

損益計算書

(百万円未満の端数切り捨て)

| 科 目 | 前事業年度 自 平成21年1月1日 至 平成21年12月31日 | 比率 (%) | 当事業年度 自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日 | 比率 (%) | 増減額 | 内 容 |
|-----------------|---------------------------------------|-----------|---------------------------------------|-----------|------|-----------------|
| 売上高 | 8,102 | 100.0 | 7,358 | 100.0 | △743 | |
| マスク関連事業 | 7,076 | 87.3 | 6,828 | 92.8 | △248 | 需要は当期後半下げ止まる |
| 環境関連事業 | 1,025 | 12.7 | 530 | 7.2 | △494 | 昨年の医療向け換気装置の反動大 |
| 売上原価 | 4,576 | 56.5 | 4,086 | 55.5 | △490 | 原価率の低減 |
| 売上総利益 | 3,525 | 43.5 | 3,272 | 44.5 | △253 | |
| 販売費及び一般管理費 | 2,931 | 36.2 | 2,636 | 35.8 | △295 | 業務の効率化 |
| 営業利益 | 593 | 7.3 | 635 | 8.6 | 42 | |
| 営業外収益 | 24 | 0.3 | 23 | 0.3 | △0 | |
| 受取利息 | 1 | | 0 | | △0 | |
| その他 | 23 | | 23 | | 0 | |
| 営業外費用 | 169 | 2.1 | 126 | 1.7 | △43 | |
| 支払利息 | 77 | | 81 | | 4 | |
| その他 | 92 | | 45 | | △47 | |
| 経常利益 | 448 | 5.5 | 532 | 7.2 | 84 | |
| 特別利益 | 64 | 0.8 | 247 | 3.4 | 183 | 適格年金制度終了益 |
| 特別損失 | 53 | 0.7 | 45 | 0.6 | △8 | |
| 税引前当期純利益 | 458 | 5.7 | 735 | 10.0 | 277 | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 341 | | 225 | | △116 | |
| 法人税等調整額 | △150 | | 89 | | 240 | |
| 当期純利益 | 268 | 3.3 | 421 | 5.7 | 153 | |

キャッシュ・フロー計算書

(百万円未満の端数切り捨て)

| 科 目 | | 前事業年度 平成21年1月1日から 平成21年12月31日まで | 当事業年度 平成22年1月1日から 平成22年12月31日まで | 状況及び主な要因 |
|---------------------|------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 1,109 | 1,092 | ・ 税引前当期純利益7億35百万円 ・ 売上債権の減少 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △397 | △170 | ・ 有形固定資産取得の支出2億54百万円 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △663 | △779 | ・ 短期借入金の純増額20億円 ・ 社債の償還の支出22億円 ・ 長期借入金の純減額3億88百万円 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | — | — | |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | | 48 | 142 | |
| 現金及び現金同等物の | 期首残高 | 1,617 | 1,666 | |
| | 期末残高 | 1,666 | 1,809 | |

平成23年12月期の業績予想

次期(平成23年12月期)の見通し

(百万円未満の端数切り捨て)

| 区 分 | 第48期実績 平成22年12月期 | 第49期予想 平成23年12月期 |
|------------|---------------------|---------------------|
| 売上高(百万円) | 7,358 | 7,600 |
| 営業利益(百万円) | 635 | 650 |
| 経常利益(百万円) | 532 | 550 |
| 当期純利益(百万円) | 421 | 300 |
| 1株当たり当期純利益 | 83円 31銭 | 59円 32銭 |

Clean, Health, Safety



プレスリンクブローマスク
(BL-700U)



鏡内侍 (F1)



KOACH (フローコーチ)

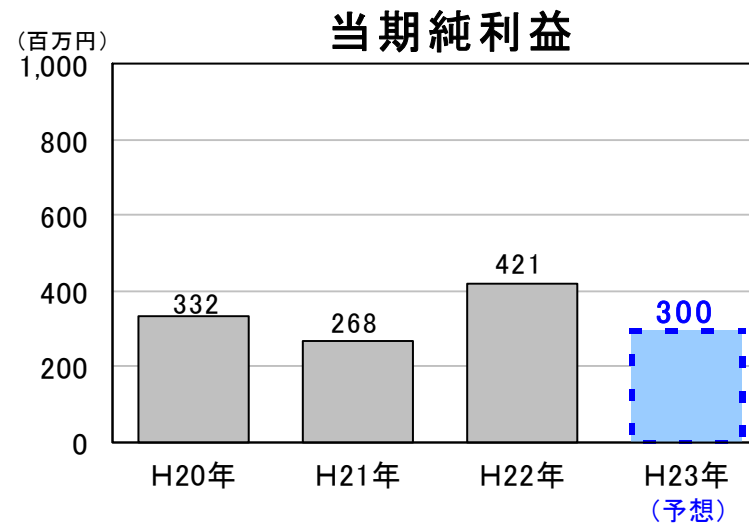
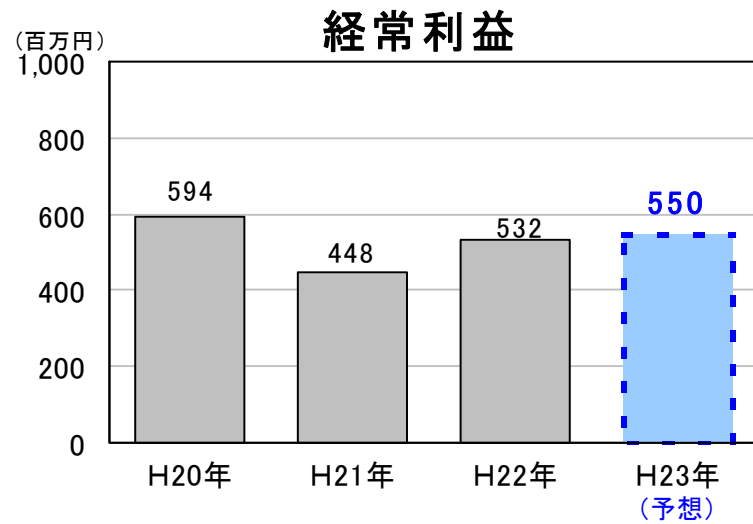
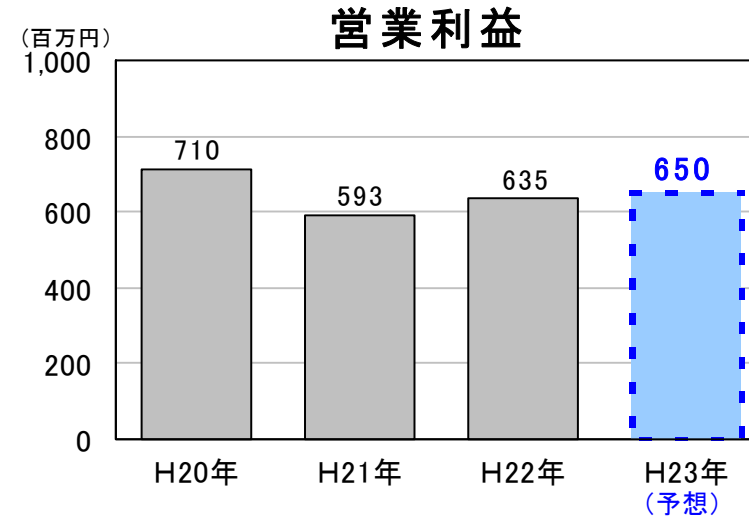
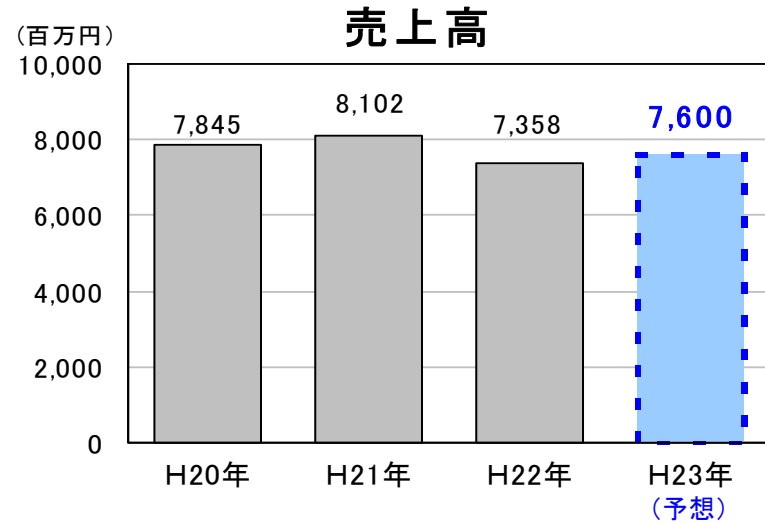
国内における景気の先行きは安定化したとの見方が多勢となりましたが、当社のマスク関連事業部門では、特に第二次産業における市場環境は今後も厳しい状況が続くと予想しております。この中であって、当社マスク製品の特長である高フィット性という強みを産業・医療両分野に訴求してシェアの拡大を図るとともに、トンネル・石綿作業現場で高い評価を得ている**電動ファン付き呼吸用保護具「プレスリンクブローマスク」**を、ナノマテリアル取扱い作業場、溶接作業場など他の様々な市場への浸透を図り、拡販していく計画です。これ等によって同事業部門の売上高は、66億円(前事業年度比3.3%減)となる見込みです。

環境関連事業部門においては、**全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」**の全国医療機関への導入を促進すべく、従来のオリンパスメディカル社製内視鏡対応モデル「O1(オーワン)」に加え、富士フィルム社対応の新モデル「F1(エフワン)」を当事業年度に市場投入しました。次期はこの両機種による拡販を進めて参ります。また、**オープンクリーンシステム「KOACH」**は、日刊工業新聞社選定の『2010年(第53回)十大新製品賞(本賞)』を受賞し、そのクリーン化技術の秀逸性・実用性は社外からも高く評価されております。今後は広告や展示会、そして平成23年3月にオープンいたしましたショールームを活用し、「KOACH」の認知度の向上を図りながら、販促に勤めて参ります。これ等施策により同事業部門の売上高は、10億円(前事業年度比88.5%増)となる見通しです。

以上により、両部門を合わせた業績は、売上高76億円(前事業年度比3.3%増)、営業利益6億50百万円(前事業年度比2.2%増)、経常利益5億50百万円(前事業年度比3.2%増)、当期純利益3億円(前事業年度比28.8%減)となる見通しです。

次期の売上高及び利益の予想

(百万円未満の端数切り捨て)



本資料の平成23年12月期業績予想数値及び将来に関する事項につきましては、平成22年12月期決算発表日(平成23年2月4日)現在において、入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る平成22年12月期決算発表日現在における仮定を前提としております。今後、様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>